

広島県聴覚障害者センターだより



Hiroshima Chokaku Center

広島県聴覚障害者センター

〒734-0007 広島市南区皆実町1丁目6-29

電話：082-254-0085

FAX：082-254-0087

E-mail [minami@hiro-chokaku.jp](mailto:minami@hiro-chokaku.jp)

URL [hiro-chokaku.jp](http://hiro-chokaku.jp)

No.6 2017(平成29)年12月1日発行 (毎月1日発行)

## ろう者と聴者が助け合うこと



11月のある日、呉市西消防署にて聴覚障害者救急訓練が行われました。当日は、呉地域聴覚障害者防災連絡協議会(呉市のろうあ協会、難聴者協会、2つの手話サークル、要約筆記サークルの5団体で構成)のメンバーと呉市西消防署の皆さん約40人の参加がありました。訓練は2013年から始め、今年で5回目になります。

本年度は、聴覚障害者救急事案対応訓練と心肺蘇生法訓練を行いました。聴覚障害者救急事案対応訓練とは、モデル役のろう者がまず、メール119番で救急車出動を要請します。救急隊員が現場に急行し、ろう者と身振りや筆談等でコミュニケーションを取り、搬送するまでのロールプレイを行うというものです。

もう一つは胸骨圧迫とAED操作の訓練です。今回は初めて液晶画面にイラストとメッセージが表示されるタイプのAEDをお借りすることができました。音声ガイドも当然ついてます。「聴覚障害者向き」「聴覚障害者にも使用できる」と紹介されることが多いですが、高齢者や日本語が十分ではない外国人、更にAEDの操作に慣れていない方にも簡単に操作できるという利点があります。

防災では自助・共助・公助が言われます。「自助」とは自分で自分を助けること、「共助」とは家族、企業や地域コミュニティで共に助けあうこと、「公助」とは行政による救助・支援のことです。救急時も同じだと思います。ろう者に何かあれば、居合わせた聴者に助けてもらうこともあります。これが共助の精神です。反対もまた然り。聴者に何かあれば、その場に居合わせたろう者が行動する番です。イラストとメッセージ付きのAEDはろう者が行動すること、つまり社会参加を後押しします。

しかし、こうした訓練の場では、ともすると聴者のペースで進むことも多いように感じます。今回の訓練でもそれを感じました。AEDの操作について、まず、消防職員による実演が行われました。次いで、「誰か一人やってみませんか」の声に、サークル会員から手が上がりました。聴者であるサークル会員がAED操作訓練を行い、参加者全員での胸骨圧迫訓練に入りました。ろうあ協会、難聴協会だけではなく、手話サークル、要約筆記サークル会員との合同訓練です。しかし、せっかくイラストとメッセージが表示されるAEDをお借りしたのに…という思いもあります。この件で、何か意見が出るかと思っていたのですが、意見は出ず、訓練はそのまま終わりました。

困った時はお互い様です。共助が必要です。それは、聴者だけの場合、ろう者だけの場合に限りません。聴者とろう者が一緒の場でも同じです。イラストとメッセージと音声ガイド付きのAEDがもっと普及して欲しい。そして、お互い様として、聴者とろう者が対等に助け合える社会をつくるための取り組みをする必要性を感じた一日でした。

なお、今回のケースでは、その場でろう者のAED操作訓練も追加で入れるようにすれば良かったと反省しました。実行員会で意見を言います。(松岡)